

五年生で
習う漢字
193
字

読み⑩

名前

— 線部の漢字の読みをひらがなで書きましょう。

1回目
月 日

2回目
月 日

181 暴風ぼうふうに備える。

182 山脈さんみゃくをながめる。

183 司会しかいを務める。

184 遊びあそびに夢中むちゆうになる。

185 着る服きるふくを迷まよう。

186 綿わたあめを買う。

187 外国がいこくに商品しょうひんを空輸くうゆする。

188 お金おかねが少し余あまった。

189 容易よういにできる問題もんだいだ。

190 文ぶんを省略しょうりゃくする。

191 海外かいがいに留学りゅうがくする。

192 要領ようりやうよく仕事しごとをする。

193 歴代れきだいの校長けいちょう先生せんせいが集まる。

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

山折り

れきだい	う	ようりよ	く	りゆうが	やく	しょうり	ようい	た	あま(っ	くうゆ	わた	まよ(う)	むちゆう	つと(め	やく	さんみ	ぼうふう
------	---	------	---	------	----	------	-----	---	------	-----	----	-------	------	------	----	-----	------

【181～193まで、全問できるようになった日】
月 日

五年生で
習う漢字
193
字

読み

かだめし
①

次の漢字の音読みと訓読みを、それぞれひらがなで書きましよう。

漢字の音と訓

1回目
月 日

2回目
月 日

②		①	
勢		効	
訓読み	音読み	訓読み	音読み
い		く	
○	○	○	○

い		く	
○	○	○	○

山折り

いきお(い)	せい	き(く)	こう
--------	----	------	----

漢字の音と訓

次の漢字の音読みと訓読みを、それぞれひらがなで書きましよう。

1回目

月

日

2回目

月

日

⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	
導	快	退	営	肥	余	招	額	務	
訓読み	音読み	訓読み	音読み	訓読み	音読み	訓読み	音読み	訓読み	音読み
				こえ					
く	い	けるく	む	やす	する	く		まるめる	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	

				こえ				
く	い	けるく	む	やす	する	く		まるめる
○	○	○	○	○	○	○	○	○

山折り

みちび(く)	どう	こころよ(い)	かい	しりぞ(く) しりぞ(ける)	たい	いとな(む)	えい	こ(やす)	ひ	あま(る) あま(す)	よ	まね(く)	しょう	ひたい	がく	つと(める) つと(まる)	む
--------	----	---------	----	-------------------	----	--------	----	-------	---	----------------	---	-------	-----	-----	----	------------------	---

①～⑪まで、全問できるようになった日

月 日

— 線部の漢字の読みをひらがなで書きましよう。

ひょうむね

1回目

月 日

2回目

月 日

1 馬の耳に念仏。

馬にはありがたい念仏を聞かせても、そのかちがわからないことになり、うしろの言ひ聞か
せてもききめがないことのとえ。

2 果報は寝て待て。

しあわせは運によるもので、人の力ではどうにもならないのだから、あせらずに自然に待つがい
うことになりわね。

3 三人寄れば文殊の知恵。

ふつうの人でも三人集まって協力すれば、よいちえが出るというたとえ。

4 ねこに小判。

ねこには小判のちがわからぬことから、高価な物でも、持つ人によってはむだになってし
まうことのとえ。

5 花より団子。

美しいものより、実際に役立つものをえらぶことのとえ。

四字熟語

6 右往左往。

人が右に行ったり左に行ったりすることから、あわてふためいて、混らんした状態のこと。

7 玉石混交。

すべれたものとおとつたものが入りまじること。

8 言語道断。

あまりにひどくて、言葉で言い表せないほどであること。もつこのほか。

9 適材適所。

その人のもっている能力や才能を正しく評価して、よくあてはまった仕事や役目につけよう。

10 一進一退。

①進んだり後ろにもつたりする。②よくなったたり、わるくなったたりする。

山 折 り

【1〜10まで、全問でできるちがった目】

月 日